

「PS Journal」第1～13号(2003年～2008年)

「CPC Journal」第1～6号(2009年～2018年)収録小論文・執筆者一覧

※ PS JournalはCPC Journalの先行冊子。不定期年2～3回刊行。50頁程度。カバーにはPS JournalとCPC Journalの号数。

- 渡部 蕪 ■国立大学も法人化で競争の時代へ (PS1)
- 高橋寛人 ■大学教員の身分保障問題 (PS1)
- 我が政男 ■研究と調査 (PS2)
- 坂口満宏 ■日系カナダ人情報の現在 (PS2)
- 澤 正宏 ■大学で「文学」を読むことの質的転換の試み (PS2)
- 庄司俊作 ■「平成の大合併」と農村社会史研究 (PS2)
- 後藤致人 ■旧農林水産省管轄羊手牧場所蔵資料 (PS2)
- 落合 功 ■250年間の「平和」 (PS2)
- 林 博史 ■ジェンダーの視点からの軍隊戦争研究 (PS3)
- 黒古一夫 ■「ヒロシマ・ナガサキ」からの59年風化に抗する意思 (PS3)
- 牧野 篤 ■曖昧な科学としての教育学 (PS3)
- 藤原 学 ■汝、自身を知れ。京都大学総合体育館の建築論 (PS3)
- 荒木田岳 ■市町村合併と行政文書 (PS3)
- 李 長波 ■中国語教育雑感 (PS3)
- 落合 功 ■250年間の「平和」(その2) (PS3)
- 富岡幸一郎 ■『非戦論』について (PS4)
- 永江雅和 ■行政史料と個人情報 (PS4)
- 北原 仁 ■「普遍性」をめぐる (PS4)
- 伊狩 弘 ■島崎藤村研究の現状と文学を読むことの意義 (PS4)
- 矢嶋道文 ■嘉永6年のできごと (PS4)
- 三木理史 ■植民地鉄道史研究の現在 (PS4)
- 横山和輝 ■金融史研究の現在 (PS4)
- 下羽友衛 ■市民(地球市民)育成への挑戦 (PS5)
- 大車夏身 ■インターネット情報源検索演習 (PS5)
- 高嶋修一 ■閲覧者から見た資料館 (PS5)
- 鈴木勇一郎 ■大学史編纂雑感 (PS5)
- 中川 洋 ■日本の「負の遺産」を考える (PS5)
- 桜井昭男 ■山形県柳町(黒川)の資料調査から (PS5)
- 小坂 肇 ■歴史資料データベース研究開発の一事例 (PS5)
- 阿部武司 ■綿業史研究の現状と問題点 (PS6)
- 大島真理夫 ■二分法的経済社会認識の錯誤 (PS6)
- 老川慶喜 ■もうひとつの研究活動 (PS6)
- 寺脇陸夫 ■古書店で出会った資料や蔵書がおしえてくれたもの (PS6)
- 増田周子 ■カフェと文化運動 (PS6)
- 笹部昌利 ■志士と由緒 (PS6)
- 佐々木淳 ■イギリスでの出来事 (PS6)
- 上田正行 ■エリーゼは「伯林嬢女」に非ず (PS7)
- 牧野泰子 ■プリンストン大学東アジア図書館日本語コレクションについて (PS7)
- ライハルト・エルク ■ドイツ・エルフェルト大学東アジア史研究室の概要 (PS7)
- 広野好彦 ■ニコライ2世日記 挫折と再読 (PS7)
- 新井勝紘 ■市民と大学生にとっての歴史展示の意味—「軍事郵便」の運命を危惧して (PS7)
- 加藤邦彦 ■中原中也、新聞を読む (PS7)
- 熊本史雄 ■「情報公開法」と近代史科学 (PS7)
- 大浜慶子 ■中国女性学の最新動向 (PS8)
- 天野晴子 ■ジェンダー統計に関する研究 (PS8)
- 田代美江子 ■ジェンダー研究とセクシュアリティ研究の交差 (PS8)
- 山澤和子 ■NPOと女性の学習 (PS8)

- 高野良子 ■学校女性管理職の研究 (PS8)
- 藤枝充子 ■「家庭教育」の歴史研究について (PS8)
- 真橋美智子 ■戦後(1970年代まで)の女子教育研究をめぐって (PS8)
- 佐々木克 ■復古政府と身分問題 (PS9)
- 原田敏一 ■最初の現地調査「掃苔録」第1冊から (PS9)
- 布川 弘 ■総合科学と歴史学 (PS9)
- 九頭見和夫 ■宮沢賢治の造語「イーハトヴ」について (PS9)
- 田 原 ■作品の力がものを言う記号—中国における谷川俊太郎— (PS9)
- 呂 寅滴 ■「自立」途上にある韓国の植民地期経済史研究 (PS9)
- 伊藤正直 ■資本市場研究について (PS9)
- Drago Unuk ■"A Linguist came from a small country, Slovenia." ヨーロッパの帝国主義の東漸と東アジアの商人ネットワーク (PS10)
- 籠谷直人 ■RG131接收商社資料と空襲ターゲット選定 (PS10)
- 三輪宗弘 ■一次資料と出合いと大学図書館いろいろ (PS10)
- 宮下弘美 ■地方鉄道史料との出合い (PS10)
- 関谷次博 ■船舶保存の課題 (PS10)
- 入江良郎 ■フィルムセンターにおける映画資料の収集と公開 (PS10)
- 井上真琴 ■大学図書館員が教える「情報の紡ぎ出す力」 (PS10)
- 敵 善平 ■中国経済はなぜ成長したか (PS11)
- 廣田 誠 ■戦後の郊外住宅都市における小売商業の展開と「お買い物バス」の運行 (PS11)
- 松本和明 ■「地域に根ざす」経営史研究者としての—あり方 (PS11)
- 黒沢文貴 ■史料の保存や公開、あるいは戦争の労苦継承や慰籍事業に関する雑感 (PS11)
- 神 繁司 ■移民関係誌から考えること (PS11)
- 坂野慎二 ■ドイツの逆襲—データに基づく教育計画 (PS11)
- 一柳廣孝 ■「オカルト」の現在 (PS11)
- 金子幸代 ■国外「掠島通信」における西歐文化の受容と伝搬 (PS12)
- 秋山 稔 ■石川近代文学館蔵徳田秋聲原稿について (PS12)
- 藤原 学 ■谷崎潤一郎と日本橋人形町 (PS12)
- 野村幸一郎 ■東京裁判と文学 (PS12)
- 澤 正宏 ■「小説で読む日本の問題」を求めて (PS12)
- 井上 孝 ■水曜会と新水曜会 (PS13)
- 村川庸子 ■歴史学会の醜聞 (PS13)
- 和田教彦 ■「リテラシー史」という領域 (PS13)
- 邊 英治 ■大蔵官僚の天下りと銀行業の近代化 (PS13)
- 宮地英敏 ■北部九州の炭鉱史料群を前にして (PS13)
- 佐々木隆 ■ヒトの行為を中心に地域経済の変動を考える (PS13)
- 堀内寛雄 ■現在の研究と関心 (PS13)
- インターネット環境下における原資料—憲政資料を例に— (CPC1)
- 地方図書館をめぐる現状 (CPC1)
- 「民間」公共図書館の可能性 (CPC1)
- 「日米韓」の図書館を訪問して (CPC1)
- 私説「いちばん病」 (CPC1)
- 文化としての科学を求めて (CPC1)

- 小浜傳次郎 ■特集寸想 (CPC1)
- 徐 載坤 ■バベル塔崩壊以前への復帰 (CPC2)
- 和合亮一 ■いくら亡ぼされても、針は。(CPC2)
- 大須賀茂 ■21世紀はクリアーな日本語教育へ (CPC2)
- 神 繁司 ■寺山修司の言語性、もしくは方言性—一章としてのコラージュ (CPC2)
- 矢嶋道文 ■近世日本の「鎖国」と「重商主義」—長崎貿易と国民生活との関係(1)— (CPC2)
- 李 長波 ■近代日本語教科書選集の編集を終えて (CPC2)
- 大森一宏 ■「愛知県庁文書」との関わり (CPC3)
- 藤田幸樹 ■研究テーマと「縁」 (CPC3)
- 末田智樹 ■歴史学と地理学の融合 (CPC3)
- 北澤 満 ■石炭産業史研究—北海道と九州— (CPC3)
- 岡部桂史 ■ものづくり愛知と地域研究 (CPC3)
- 奥泉栄三郎 ■「米國司法省戦時経済局対日調査資料集」の意義 (CPC3)
- 奥泉栄三郎 ■我が半生傳としての移動・文化接触雑考 (CPC4)
- 坂口満宏 ■史料がさらなる史料を呼び寄せる不思議—幻の雑誌「平和」を探し求めて— (CPC4)
- 桑井輝子 ■「移民地芸芸」を求めて (CPC4)
- 柳下宙子 ■新渡戸稲造の外交旅券 (CPC4)
- 滝田祥子 ■災害時にマイノリティーであることの意味：9.11以降のアメリカ、3.11以降の日本から見えて来るもの (CPC4)
- 矢嶋道文 ■近世日本の「鎖国」と「重商主義」—長崎貿易と国民生活との関係 (2) (CPC4)
- 和田桂子 ■Cayne Press について (CPC5)



- 和田康一郎 ■「旅人」鑑賞の試み (CPC5)
- 市川 毅 ■西脇順三郎の朔太郎評価が意味するもの—日本語・諸語・リアリスト— (CPC5)
- 大田昌孝 ■日本の(東洋的)視座からの西脇順三郎研究 (CPC5)
- 澤 正宏 ■西脇順三郎 (1894～1982) 没後 30年と生誕120年を記念して (CPC5)
- 光本 滋 ■危機に立つ国立大学、その後 (CPC6)
- 山形 定 ■大学の危機、「産業政策の中の大学」を転換するために (CPC6)
- 田岡昌大 ■教員・保育者養成課程と「学問の自由」 (CPC6)
- 金馬国晴 ■大学、大学教員とは何のためか？—国立大学法人の財政難と教員養成学部の社会的責任— (CPC6)
- 高橋寛人 ■「教職課程コアカリキュラム」がもたらす教職課程の授業と教員審査への弊害 (CPC6)
- 小社出版案内 / CPC 便り (6)

作成者：クロスカルチャー出版「CPC Journal」編集部 CPC Journal 刊行委員会

「PS Journal」2003 autumn 創刊号 特集 転機の中の大学
 2004 spring 第2号 特集 研究者の現在
 2003年 第3号 特集 研究者の現在II
 2004年 第4号 特集 研究者の現在III
 2005年 第5号 特集 研究者の現在IV 若手研究者を中心に
 2005年 第6号 特集 研究者の現在V 経済史を中心に
 2005年 第7号 特集 研究者の現在VI 越境する日本文化
 2006年 第8号 特集 研究者の現在VII 女性学研究最前線
 2006年 第9号 特集 研究者の現在VIII 人文・社会科学の、パースペクティブ
 2006年 Special issue Focus: Cross-cultural aspect

2007年 第10号 特集 研究者の現在IX 人文・社会科学の、パースペクティブ2
 2007年 第11号 特集 研究者の現在X 人文・社会科学の、パースペクティブ3
 2007年 第12号 特集 研究者の現在XI 地方文学研究者は命
 2008年 第13号 特集 研究者の現在XII 歴史研究の地平
 「CPC Journal」2009年 第1号 特集 ライブリアンは命の交差発信地のめざすもの
 「CPC Journal」2009年 第2号 小特集 雑駁的日本語論
 「CPC Journal」2010年 第3号 特集 地域研究の現在—中部地方を中心に—
 「CPC Journal」2011年 第4号 特集 移動・文化的接触
 「CPC Journal」2012年 第5号 特集 西脇順三郎研究の現在
 「CPC Journal」2018年 第6号 炭本編 特集 大学の危機

《小社主催・文化講演会開催 2009～2016》

- 第1回 『図書館に訊け！と訴える』 井上真琴 (大学コンソーシアム京都副事務局長) 2009年11月7日開催
- 第2回 『詩人西脇順三郎を語る』 澤 正宏 (福島大学教授/近現代文学) 2010年6月8日開催
- 第3回 『江戸時代を考える—鎖国と農業』 矢嶋道文 (関東学院大学教授/比較文化史) 2010年11月20日開催
- 第4回 『移動・文化的接触：雑誌「平和」をつくる人びと—日本・アメリカ・イギリスとの交流—』 坂口満宏 (京都女子大学教授/文化史) 2011年5月28日開催
- 第5回 『日米の架け橋—シカゴ流よもやま話』 奥泉栄三郎 (シカゴ大学図書館日本研究上席司書) 2011年11月12日開催
- 第6回 『今 原発を考える—フクシマからの発言』 安田純治 (弁護士)・澤 正宏 (福島大学教授) 2012年6月16日開催
- 第7回 『危機に立つ教育委員会』 高橋寛人 (横浜市立大学教授/教育行政学) 2012年12月8日開催
- 第8回 『慰安婦問題』 林 博史 (関東学院大学教授/政治学) 2013年7月13日開催
- 第9回 『徳川時代の平和』 落合 功 (青山学院大学教授/日本経済史) 2014年7月19日開催
- 第10回 『学問と教育の危機—文系廃止問題の本質』 光本 滋 (北海道大学准教授) 2016年7月9日開催 (敬称略。講師肩書きは講演会開催当時のものです)

小社では年2回、講師を招き文化講演会を開催しております。ご案内ご希望の方はメールにてお問い合わせ下さい。(e-mail:rocrucl99@sound.ocn.ne.jp)

